



「回復への道」 リック・ウォレン著

セブレイト・リカバリー・シリーズ
山上の説教に基づく回復の8原則
評・前島常郎

「セブレイト・リカバリー」は、クリスチャンの団体で、週1回、2〜3時間集まって、何らかの依存から回復することを助け合うミニストリーである。ここでは、リーダーから教えを聞いて学ぶとともに、メンバーが正直に分ち合い、支え合うことに焦点が当てられる。専門家がカウンセリングをするのではない。

* * * * *

本書は、ミニストリーのテキストとして書かれたものである。著者は、アメリカ、カリフォルニア州のサドルバック教会牧師であるリック・ウォレン。彼は、通称「アルコール依存症者のための12ステップ」(略して「12ステップ」)をヒントにして、聖書を前面に出した回復プログラムを8原則にまとめた。それが「回復への道」である。目的は、アルコールや薬物だけではなく、「だれもが抱える心の傷」とらわれ、悪習慣からの回復にある。

最初から最後まで聖句に裏打ちされていて、その基本は「山上の説教」である。

私なりに回復の8原則を要約すると、以下のようになる。

* * * * *

原則1 〓 私は人間であって神でないこと、そして自分の人生が手に負えないことを認めます。

原則2 〓 神には、私を回復させる力があることを心から信じます。

原則3 〓 私の人生と意志のすべてを、キリストの配慮と導きにゆだねます。

原則4 〓 自分の犯した過ちを自分と神と信頼できる人に告白します。

原則5 〓 性格上の歪みを直してくださるよう、へりくだって神に求めます。

原則6 〓 自分が傷つけた人々を赦し、自分が傷つけてしまった人々に償いをします。

原則7 〓 日々、神と交わる時間を確保し、聖書を読み、祈ります。

原則8 〓 神が私を用いてくださるよう、自分自身を明け渡します。

* * * * *

ひとりで、「クリスチャン生活の徹底」と言い換えられる。

本書は、読み終わって「感動した、教えられた」では終わらせない。読者もこのステップを歩む先輩たちに導かれて、回復への道を進み始めたくなるようになってきている。

* * * * *

各原則の最後には、回復中のクリスチャンの証しがある。登場するのは、アルコール、麻薬、共依存、摂食障害に悩んでいた人たちだ。その他、本書には取り上げられていないが、ポルノ、性行動、買い物、ギャンブル、インターネットなど、現代人を取りこぼさない行動にも、この原則は適用できるだろう。

クリスチャンであっても、以上のどれかにはまる危険はいつもある。むしろ、長年信仰生活を続けていながらこれらの問題行動を隠している、言い出せなくて悶々と悩んでしまうのが正直なところだろう。逆に、グループに入ってから聞いているうちに、自分がとらわれていた問題に初めて気づくこともあるかもしれない。

「セブレイト・リカバリー」では、仮面を脱いでありのままの交わりができるよう、分ち合いは男女別になされ、個人の秘密は守られる。

著者は、この働きを以下のよう

に説明している。
「セブレイト・リカバリーは、過去の痛ましい記憶を呼び覚まして、後ろ向きの回想を繰り返すの

ではなく、将来に焦点を合わせていくプログラムです。すでに起こってしまったことはどうすることもできません。大切なのは、今どのようにして賢明な選択をしていくかということであり、必要な変化をもたらすために、いかにしてキリストの力により頼んでいくかということだからです」

* * * * *

キリストのからだの交わりの中で、正直に自分の問題に向き合う、それこそが回復への第一歩なのだ。日本でも、東京、神奈川、千葉を中心に「セブレイト・リカバリー」が始まっている。以下のサイトで、会場など詳細を確認できる。

<http://www.pdjapan.com/faq/cr.html>



リック・ウォレン著「回復への道」

セブレイト・リカバリー・シリーズ
山上の説教に基づく回復の8原則

定価1600円+税
パーパス・ドリン・ジャパン発行 四六判 ハードカバー 223ページ
*ファミリー・フォーラム・ジャパンでは扱っておりません。